

放課後子ども教室だよ

川俣 たのしい教室

令和5年12月6日(水)訪問

「川俣たのしい教室」は、川俣小学校の1～6年生30名が登録しています。活動は小学校の空き教室を利用して行っており、体育館や中庭も使って遊んでいます。

訪問した日は、宿題を済ませてから体育館でドッジボールをしたり、中庭で一輪車をしたりして遊びました。スタッフの方に見守られながら、学年に関係なくみんなで仲良く遊ぶ姿がたくさん見られました。以前に比べると、放課後に学年の異なる子どもたちが集まって遊ぶことが少なくなってしまったので、たのしい教室は異学年交流の貴重な場となっており、子どもたちも活動を楽しみにしているようです。

教えてくれて嬉しいな。
自分もあんな6年生になりたいな。



憧れ



それぞれ遊びたい遊びをします。

さすが6年生だね。
小さい子の面倒を見るのが上手だね。



周りの大人たちの眼差し



友達とかかわる楽しさを味わいます。

お手本になれた！
役に立てた！



自己有用感



ルールや役割は自分たちで考えます。

【子どもたちの感想】

- ・ 6年生とドッジボールができるのが楽しい。
- ・ 学校生活でできないことができるし、大きい人たちが優しい。
- ・ 違う学年と遊ぶことができるのがよい。
- ・ みんなと一緒に宿題ができるし、友達が増える。



子どもたちから、異学年で遊ぶのが楽しいという感想がたくさん聞かれました！

他者の存在を前提として自分の存在価値を感じることに、誰かの役に立てたという成就感や誰かから必要とされている満足感のことを「自己有用感」と呼びます。「異学年交流」における年長者の「自己有用感」の獲得に大きな影響を及ぼすのは、交流相手の年少の児童だけでなく、保護者や地域の人々など周りの大人たちの存在です。

お世話した相手のうれしそうな表情や、お礼の言葉はもちろん、周りの大人やスタッフの方から「すごいね」「しっかりしてきたね」と褒められることは、子どもたちの集団の一員としての自信や誇りを得ることにつながり「自己有用感」を高めることができます。みなさんは子どもたちにどんな言葉を掛けていますか？